

## 事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 30年3月31日

2次評価日（課長等） 30年3月31日

1 事業名	蚕糸業対策事業	コード	21304
-------	---------	-----	-------

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	作成者	小林 隆
--------	----	-------	----	---------	-----	------

3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち		
		政 策	産業の振興	施 策	商業の振興
		予算科目	蚕糸業対策事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
事業の概要 （簡潔に）	シルク岡谷の歴史を風化させることなく、広く文化及び技術を継承していくために、蚕糸業に係る支援策を展開する。		
目的	対象者	市民及び岡谷絹工房会員	
	意 図	伝統産業の継承及び後継者の育成、シルクのまちづくり推進	

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容	
<p>岡谷絹を使用した機織りの技術、染色技術の後継者育成を行う「岡谷絹工房」を支援するとともに、「2017シルクフェア in おかや」を主催する「シルクフェア実行委員会」を支援した。</p> <p>また、シルク文化の創造と発展、シルク岡谷の発信を目的として、はじめて日本絹文化フォーラム実行委員会が主催して開催した「日本絹文化フォーラム2017」を支援した。</p>			
<p>負担金：シルクフェア実行委員会負担金 200,000円 参加者 1,595名 4/29          日本絹文化フォーラム負担金 100,000円 参加者 324名 4/28          補助金：岡谷絹工房補助金 200,000円 会員数 37名 3/31現在</p>			
前年度の課題への対応	シルクおかやふるさと産業研究会では、主体的、積極的に活動できるよう組織を見直すとともに団体の名称を「岡谷絹工房」に変更した。シルクフェア実行委員会では、スタンプラリーを行うなど、イベントの魅力向上に努めた。		

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	支援事業数			単位	団体
実績値	2	2	3		
*指標の説明	補助金及び負担金の交付団体数				
② 成果指標（指標名）	イベント参加者数			単位	人
目標値	1,700	1,828	1,828	1,919	
実績値	1,828	1,086	1,595		
達成度	107.5%	59.4%	87.3%		
*指標の説明	シルクフェアと日本絹文化フォーラムの参加者数合計（28年度以前はシルクフェアのみ、）				
*目標値の設定方法の説明	過去3年間の最大値				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	430,000	430,000	500,000	500,000
経常経費	430,000	430,000	500,000	500,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30
③ 合計コスト(①+②)	2,830,000	2,830,000	2,900,000	2,900,000
前年度比		100.0%	102.5%	100.0%
財源	2,830,000	2,830,000	2,900,000	2,900,000
一般財源				
内訳	0	0	0	0
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	1,415,000	1,415,000	966,667	
前年度比		100.0%	68.3%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
シルクフェア実行委員会負担金	件数	1	1	1	1
	金額	180,000	180,000	200,000	200,000
日本絹文化フォーラム負担金	件数			1	1
	金額			100,000	100,000
岡谷絹工房補助金	件数	1	1	1	1
	金額	250,000	250,000	200,000	200,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	430,000	430,000	500,000	500,000
	割合	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

標準

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。		0
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		0

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比	146.9%
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度	87.3%
		0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課 題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)	
	・岡谷絹工房の制作体制の強化及び販路拡大。商品デザインの研究、新商品の開発等。	
改 善 方 法	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	・岡谷絹工房が主体となった技術の向上に向けた研修会、勉強会の開催や販売会等への参加により消費者ニーズの把握に努めるとともに、専門家の意見等を聴取し商品デザインの研究等を行う。	
	改善開始時期	平成30年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	-------------------------------------------	---